

サ・ク・ラ・サ・ク!4th

(最高学年、苦樂を糧に、さあ、クライマックス!)

上野高校進路指導部通信 (3年生 家庭配布版) vol.13 2014/1/29

1 記述力アップへ。基本を忠実にこなすことから

もうすぐ2月です。私立大学の一般入試がスタートしました。国公立大学の願書締め切りは2/5です。センター試験から頭を切り換えて、個別大学の対策をしているところだと思います。

この時期、今までなら1問解答するのにかかった時間で3問ぐらい解答できるようになってきます。先輩は「今までバラバラだったパズルのピースがどんどん完成します」と言っています。そうすると、これまで半ば嫌々していた勉強がちょっと楽しくなってきます。この感覚が「現役生は冬から伸びる」です。

さて、私立大学入試の多くはマーク式で、国語や英語は大意把握、下線部言い換え、内容一致など形式はセンター試験に近いです(文章の内容や語彙は難しくなります)。一方、国公立大学の個別学力試験は記述式が大半です。どういう力が必要なのか、取材しました。

英語…基本は下線部和訳と英作文

① 下線部和訳で得点しよう!

単語だけ並べても解答になりません。出題者がなぜそこに下線を引いているのか、意図を見抜きましょう。構文に即した訳をすることができるのか、主語がわかっているか、this, that など下線部内の指示語が何を指しているのか理解できているか、などが重要な採点ポイントです。

② 英作文で得点しよう!

英作文は、評論やエッセイから、皆さんが日常生活で使うような表現を抜き出して英作をさせる問題が多くを占めます。身近な話題の語彙を増やしましょう。自由英作文では自分の意見を表現するための語彙が必須です。また構文は必ず押さえましょう。よく出題される構文は「時間・完了・経験、計画・仮定・推測、比較、原因・理由」などです。まずはこれらの基本的な構文から復習してみましょう。

③ 答案をよく見直そう

スペルミス、大文字・小文字のミス、人称の対応、時制の一致などのミスをする人が多く見られます。必ず全体を見直してミスでの減点は避けましょう。

国語…現代文は傍線部説明と要約、古典は傍線部和訳と大意把握

④ 傍線部説明問題で得点しよう!

評論問題を解く基本は「同意反復」、同じ内容のことを言い換えている部分を抜き出すことです。文中の指示語が何を指しているかを見つけ、同じ内容の具体例や、より抽象化されている部分を探して抜き出します。やや難しい問題では、似たようなふたつの部分のうち、設問の趣旨に合致する方を抜き出させたり、その二つをつなげさせたりします。後者の場合は論理性や表現力が問われます。とにかく手を動かし、解説と比較することを繰り返して書く力をアップさせましょう。

⑤ 要約問題で得点しよう！

要約はとにかくトレーニングです。要旨を理解し、文中の言葉を使いながら、制限字数に収まるように余分な部分をそぎ落として内容を抽象化するトレーニングを繰り返し行いましょう。

⑥ 古典で得点しよう！

古典の傍線部和訳では語句の知識、指示語の理解、文法や語法に即した表現が問われます。英語と同じく和訳トレーニングと語彙、文法・語法の基本事項の復習をループで行いましょう。

記述式は客観式より「学校で学んだ基本的事項が自分のものになっているか」をストレートに聞いてきます。特編Ⅱ期を通じて自分の言葉で確実に書けるようにトレーニングしましょう。また勝手に「これでいい」と思い込むのは禁物。必ず先生に見てもらいましょう。



記述式は基本に忠実な出題。手を動かして精度アップ！

2 「伝統校は最後の5分が強い」

2013年度の高校サッカー冬の選手権、富山第一は最後の5分で同点に追いつき、優勝しました。タイトルは、四日市中央工業高校のサッカー部監督がハーフタイムに選手に向けた言葉です。

なぜ「伝統校は最後の5分に強い」といえるのでしょうか。どの学校の受験生も同じ「高校3年生」ですが、伝統校は「場面に応じた勝つための手段を数多く知っている」から強いのです。伝統とは「物理的な古さ」ではなく「経験の蓄積と継承」のことだと言えます。

- 数学は各出題についてキーワードを見つけて、どのパターンで解答するかを瞬時に選ぶ（神戸）
- 英語では国語力が大切だと思いました。長文は国語を読むような感じで、指示語や結論をヒントにしなが
まずは内容をだまかに把握します（神戸市外国語）
- 自分の理解できていないところを絞ってから答え合わせをします（同志社）
- 志望大学だけでなく出題傾向の似た大学の過去問もたくさん解いておく（奈良女子）
- とにかく繰り返しを徹底しました。手や口が勝手に動くぐらいやることは自信につながりました（神戸）
- 頑張るってやり遂げることの楽しさや嬉しさを、小さな経験から積み上げてきて、より大きな楽しさを味わ
たいと思いました（京都）

これは上野高校 HP「進路指導室」のページで公開している”Hyper Ing”（冊子版は進路指導室にあります。貸し出し可能です）や、『合格へのチケット』の一節です。進路指導部がこれらを活字にしているのは、皆さんが勉強に行き詰まったときに読み返してもらうためです。自分の学習に役立てたり、勇気ももらってください。また先生方の授業やアドバイスは先輩の成功や失敗の体験を基礎にしています。先生方の経験や思いに謙虚に耳を傾け、それを自らの糧にすることが合格への近道です。

勉強も伝統も、すべては小さなことの積み重ねです。皆さんの頑張りを心から応援しています！



伝統の力とは、先輩の経験を自分の力に変えること！